

Dream File



国立大学法人
北海道国立大学機構
Hokkaido Higher Education and Research System

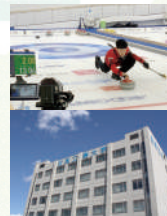
お問い合わせ先

北海道国立大学機構 総務課

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11

TEL 0155-65-4314

E-mail somu02@office.nuc-hokkaido.ac.jp



<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp>



小樽商科大学



帯広畜産大学



北見工業大学

Innovation

三大学の連携で生まれる
無限の可能性と変革

北海道の広域連携で

実現する持続可能な社会

北の絆、グローバルな

繋がる力で

未来に継げる

地域と共に成長する大学

自然と調和する

テクノロジーの発展を目指して

共に拓く北の大地、
三大学の連携

Evolution

ひらく。

小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学。地域も、学問分野も異なる3大学の経営が統合し、誕生した北海道国立大学機構。今までにない視点で、ステークホルダーと連携し、イノベーションを加速させ、社会を発展させる。それは、北海道だけではなく、日本の、世界の可能性をひらく。そう信じて、私たちは挑戦を続けます。

未来を拓く北の「大三角(トライアングル)」

農商工連携で未来を創る、
学びの力

Support

グローバルな視点から

TRYnity

地域経済の発展に貢献できる人材

三つの力が
織り成す未来のキャンパス

農商工連携で成長し、

未来のキャリアを築く

商・農・工の知で、
将来を担う能力を有する
後継者を育む

地域活性化と人材育成で
農商工の未来を拓く

北の国から新しい風を。

イノベーションの力で、ビジネスの未来を創造

Energy

知識と技術の
融合で、未来を創る

食を支え、くらしを守る。

農畜産業の未来を創る。

多様な視点が生まれる、

創造的な研究環境

分野を超えて何でも目指せる、
何にでも挑める

地域と共に成長し、
知の結集を目指す

Three times more attractive

開拓魂を再び

未来を拓く学びの場、北海道から

知る。考える。創る。

Three times more attractive

開拓魂を再び

未来を拓く学びの場、北海道から

Technology

環境的多様性を

北の実学が結ぶ未来創造の輪

基盤にした挑戦、北海道から

好奇心を、目覚めさせる

知のトライアングルが

Future

無限の可能性を引き寄せる

北海道から「北」の未来を切り拓く

商・農・工で

切り拓く新たな未来

地域に根付き、世界に花開く

Diversity

つながる力で、未来を創る

3つの柱で、今ここにない
未来を創り出す

広大な北海道で
広がる学びと研究

北の知恵が
織りなす未来

未来志向の
高等教育
新たな
システムを提供

「工・農・商」、キミの力は
どれで活かす?

地域と共に
成長する、
グローバルな
学びの場

商、農、工の融合で北海道の未来を創る

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

商・農・工で
北海道の明日を支える

北海道の知の拠点
北海道から「檄」を飛ばす

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

北海道の知の拠点

北海道から「檄」を飛ばす

商・農・工で
北海道の明日を支える

大学と共に
産業活
性化、人材育成

The best is yet
to come

官を学び金を産む

北海道の学び、

地域と共に未来を拓く

生まれる
未来が広がる

三大学の共創で
新たな発見で、

無限の可能性と挑戦

知の融合が生む

次世代を担う人材を育む、実践的な教育

未来を切り拓く、

Special interview

01

ACE

Zekkei

プロジェクト

北見工業大学
工学部 地球環境工学科
社会環境系 准教授

館山 一孝

北海道の貴重な自然現象を、
観光に役立てたい。

私たちはもともと、自然現象や地球環境に関する研究を行ってきました。そのなかで美しい景色に出会うたび、観光に役立てることはできないかと考えていたのです。帯広畜産大学の東先生も同じ思いでした。北海道には、ジュエリーアイスや雲海、蟹気楼、低緯度オーロラといったすばらしい景色がたくさんあります。しかし、どれも偶発的に発生するため、なかなか見られるものではありません。そこで、我々が観測で得たデータや経験を生かし、絶景が見られるタイミングを予測しよ

うと考えました。毎日さまざまな場所で見られるよう複数の絶景を予測し、地域の新しい観光資源にしようというアイデアが、3大学が統合する際、ACE(オープンイノベーションセンター)という枠組みのなかで生まれました。「Zekkeiプロジェクト」という名のもと、3大学一体で地域の活性に向けた新しい観光資源の創出に取り組んだのです。

正確な予測を目指した、
環境データの活用。

絶景が見られる機会や選択肢を増やす。それがプロジェクト最大の目的です。そのためには、

自然現象を予測し、

確実な予測が必要となってきます。例えば、私が研究している蟹気楼。この発生には大気中の気温差などが影響してきます。道東・オホーツクエリアに設置してある鉄塔気温計で収集したデータを、文科省が推進する世界トップレベルのデータ統合・解析システム「DIAS」を活用して予測。「絶景予測-Zekkei Explorer」というアプリケーションで公開し、そこへアクセスしたら、いつ、どれくらいの確率で蟹気楼が見られるかを確認できるようにしています。また、自然保護地域のため電波が通じない場所が多い知床エリアには、林野庁や環境省と協力し独自の観測機

器を設置するなど、より正確な予測を目指したデータ収集の取り組みも行っています。

世界中で、
データ駆動型観光を実現したい。

3大学の専門分野を存分に生かすことで、新しい観光資源を創出する。このプロジェクトの意義は、そこにあります。私たち北見工業大学の観測やデータ解析、VRといった技術。帯広畜産大学の農業、動物や植物への造詣。どちらが欠けても、この北海道という広大なフィールドを生かしきれません。今後はメ

ジャーな絶景だけではなく、野生動物がいる光景や夕日といった身近にある感動などをブランド化し、観光資源としての価値を高めていきたい。ただ予測するだけではなく、それをどう活用するかも大切です。そこは小樽商科大学の専門性を生かし、交通手段や宿泊施設との連携も進め、地域の観光をさらに活性化したいと考えています。このプロジェクトで生み出した技術を世界に広め、新しい観光の形を提案し、実現させる。それが、私たちの目指している未来です。

新たな観光資源で地域に活力を。

Special interview

02

ACE

—スマート農畜産業
プロジェクト

北海道から世界へ。農業の未来をひらく。

人手不足の解消を目指す、 新しいシステムの開発。

酪農王国である北海道では、飼料を積むトラックドライバーの人手不足が大きな課題となっています。なぜなら、ハーベスタと呼ばれる収穫用の機械にトラックを並走させるため、熟練の技が求められる上、高齢化が進んでいるからです。そこで、新人ドライバーでも安全に作業できることを目指し、北見工業大学が帯広畜産大学と共同で開発したのが「運搬トラック用の伴走

サポートシステム」です。3D-LiDARという測量機をハーベスタに設置。トラックの位置を測定しながら、LED掲示板やスマートフォン、タブレットといった身近な端末で音声案内を行い、並走位置へと誘導する機能を備えました。もう一つ着目したのが、ハーベスタの吹き出し口からの映像配信です。先端にカメラを取り付け、ハーベスタのドライバーが飼料を積むトラックの荷台を確認できるようにして、積み込み作業の精度向上を図りました。端末への配信にWi-Fiを利用することで、インターネットがつかない

牧草地でも使用が可能です。

知の融合で切りひらく、 農業の未来。

十勝とオホーツク。北海道の大規模農業地帯にある2大学が連携することに、このプロジェクトの意義があります。研究の成果が地元産業の発展につながることを期待されるからです。農業現場の自動化はまだまだ発展途上。人手不足が深刻化するなか、北海道における農業の自動化は

優先度の高い課題であり、それを進めていくのは日本の食料基地である我々の使命です。飼料収穫の現場でも、将来的には全自動化を目指しますが、まずは目の前の課題から解消する。未来へつなげるための第一歩である今回のプロジェクトは、農水省の支援を受けて進めてきました。農業の現状や課題について、帯広畜大から情報提供を受け、北見工大が工学的な側面から研究に取り組む。さらに、帯広畜大の設備と農場で実証試験を行い、問題点をフィードバックしてもらうことで改善に努める。互いの知の融合なし

に、このプロジェクトは実現しませんでした。開発されたシステムは特許出願され、現在は農業関係者向けに製品販売、社会実装を進めています。

地方こそ、自動化の可能性が 広がっている。

広大な平坦地が農地として利用されている北海道は、農業機械の自動化を進める上で利点が多いと考えています。自動化に必要な遠隔通信網のエリア拡大にも好都合な上、自

動化した機械のトラブルによる傷害事故の防止ができるなど、さまざまな課題において、他の地域よりもメリットが多いと感じています。ここで開発される技術が北海道にとどまらず、道外や海外へと広まり、さらには農業以外の分野でも役立つときがくる。研究者としては、そこに大いに期待しています。

帯広畜産大学
准教授
産学連携センター 副センター長

東 陽 介

北見工業大学
副学長(社会共創担当)

星 野 洋 平

教育格差をなくす。
それが、我々の使命である。

我々は今まで、高等教育人口を中心に教育を提供してきました。しかし、人口減少が加速する北海道では、大人の学び直し、いわゆるリカレント教育が、これからさらに重要性を増してきます。生産力の維持や世界へビジネス展開をし続けるためには、一人ひとりの力の底上げが必要です。そのために、3つの大学が持つ教育資源を、官公庁、地方自治体、企業などと結びつけることで、北海道の課題の一つである都市部と地方の教育格差を解消する。オンデマンドという手法を積極的に取り入れ、北海道のどこにいても学べる仕組みをつくる。これらを、我々が構築する「北海道リカレント教育プラットフォーム」で応えていきます。

北海道が今、必要とする人材を
育てられる強み。

小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学は、北海道における実学を中心とした大学です。商に関わること、農畜産業、地方に重要な土木開発など、まさに、北海道の歴史に

必要とされた産業を担う人材を育てることを目的に設立された大学です。北海道で、今、必要とされるものを提供する。それは我々にしかできない、最大の強みです。さらに、3大学の拠点エリアをあわせると、北海道全域をほぼカバーできます。3大学がサテライト教室を展開しリカレント教育を提供することで、北海道の誰もが平等に学ぶ環境をつくるという、我々の使命を果たすことができるのです。

学ぶことは、未来をひらく。

一番の理想は、一人ひとりの持つ知識やスキルを発信できる仕組みを、プラットフォーム上につくることです。教えることで、学びが深まるとよく言われます。互いに学び合い、高め合う仕組みができれば、北海道の人材レベルは必ず上がります。発信することで、その知識やスキルを必要とする人に響く可能性がある。結果、北海道で生きる幸せを見出せたり、世界とつながりながら新しい可能性をひらくことができる。このプラットフォームが大きく成長し、北海道が一つの知識共同体となり、人材王国となつて、やがて日本や世界の未来をつくる。それが今、描いている夢なんです。

学び合いで、北海道を「人材王国」に。

Hokkaido Higher Education and Research System

知を融合し、可能性をひらく。

未来をリードする人材育成、
研究イノベーションの創出、
産学官金連携の強化による
社会の発展。

このミッションを果たすための
3つの機関。

それぞれの強みを生かし、
多様なステークホルダーの希望を
実現させます。

II C

産学官金連携
統合情報
センター

ICE

教育
イノベーション
センター

ACE

オープン
イノベーション
センター





3大学の英知と
ステークホルダーを結びつける
ワンストップ窓口。

産学官金連携統合情報センターは、教育イノベーションセンター（ICE）、オープンイノベーションセンター（ACE）と連携して課題解決に取り組みます。ステークホルダーからの意見や要望を受けるためにワンストップ窓口を設置。寄せられた内容から、戦略を策定し、教育研究への展開、外部資金の獲得など、課題解決へ向けたミッションを遂行していきます。

STAKEHOLDERS

民間企業
経済界

道内高等教育機関
地方自治体

金融機関

IIC

教育研究成果の情報発信
プロモーション・
マーケティング

3大学の交流・情報集約・流通
ステークホルダーの要望収集
資金獲得戦略、知財戦略の策定

ICE

文理融合教育
リカレント・リススキング教育
地域課題解決型教育
遠隔教育手法開発

ACE

連携融合シーズ生成
知財管理・技術開発
共同プロジェクト推進
社会実装



小樽商科大学



帯広畜産大学



北見工業大学

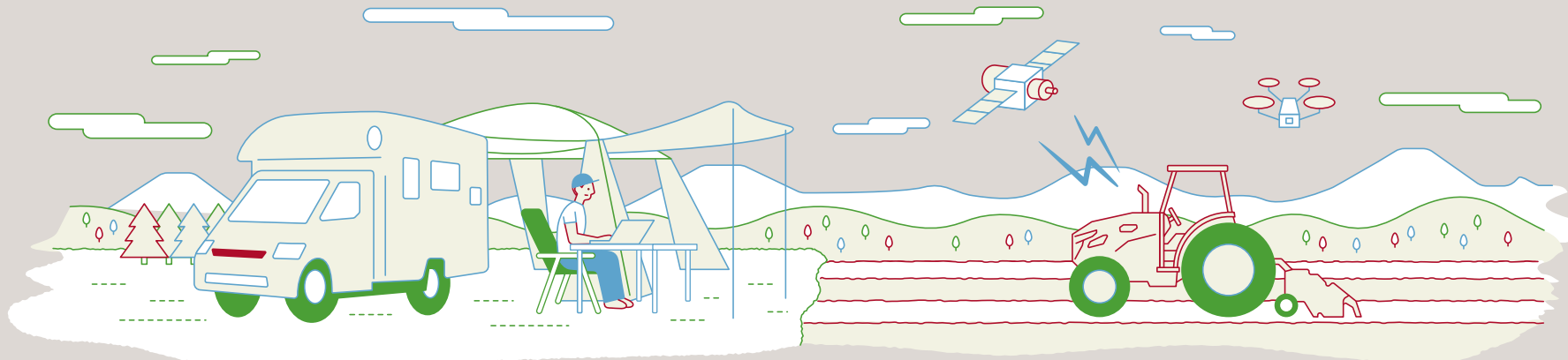
ICE

Innovation Center for
Education

教育イノベーションセンター

分野と組織の壁を越えた学び。
社会の未来を切りひらく
革新的リーダーを育成する。

多様化する社会のニーズや課題に対応できる人材を育てる。それが、教育イノベーションセンターの大きな役割です。3大学連携の強みを生かした分野融合型の学びやリベラルアーツ教育。3大学の科目を横断的に学べる各種教育プログラム、オンライン教材の開発・運用。時代の変化に応え、地域をつなぐリカレント教育を実施しています。



文理融合の副専攻型プログラム

アントレプレナーシッププログラム

北海道の地域特性を理解し、イノベーションに資する他分野の知識を得ることにより、地域・企業などにおける革新を実行しうる人材を育成



小樽商科大学



帯広畜産大学



北見工業大学

スマート農畜産業プログラム

農学をベースに、情報処理ならびに商学系科目を履修することにより、国際市場への挑戦を見据えた新たな農業システムを考察・構築できる人材を育成

スポーツ・健康プログラム

スポーツと健康を、工学・農学・商学の融合的視点から理解し、地域の人々の健康維持・増進はもとより、経営的視点から健康産業にも貢献できる人材を育成

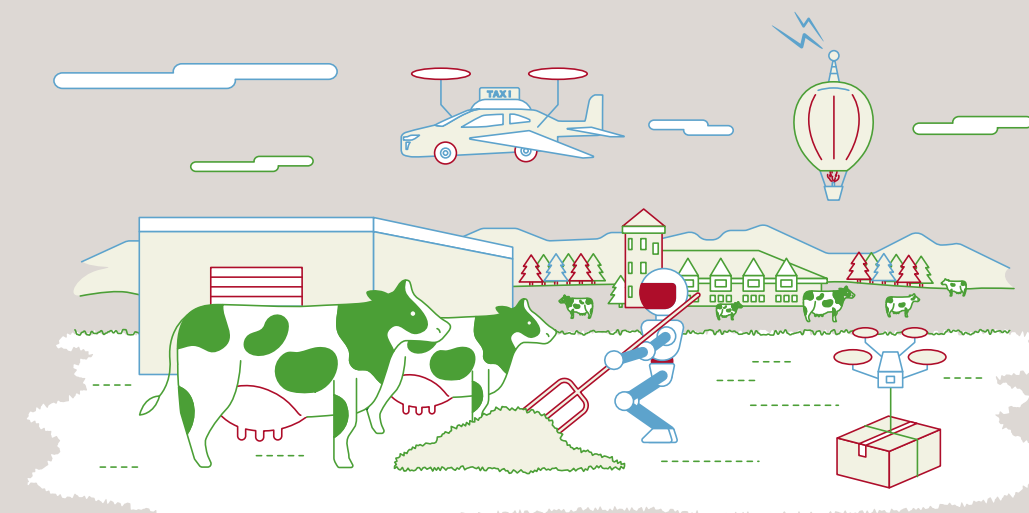
ACE

Agriculture Commerce
Engineering

オープンイノベーションセンター

農商工融合の知と
産学官金連携で
北海道の未来をイノベートする。

産学官金連携によりイノベーションを創出し、北海道の課題解決や未来に向けた持続的発展につなげる。それがオープンイノベーションセンターの大きな役割です。3大学が有する研究成果や人的資源を結集し、農畜産学・商学・工学に関する知見を融合させた研究を推進。その成果を社会実装やビジネス展開にまで広がります。



知で未来をひらく、3大学統括理事からのメッセージ



小樽商科大学

小樽商科大学が中心となり、北海道国立大学機構の教育イノベーションセンターとも協力。北海道において大学のないまちに「大学機能」を、というキャッチフレーズのもとユニバーサル・ユニバーシティ構想を進めています。本構想では「2030年までに高等教育に触れられない道民の数をゼロにする」ことを目標に掲げ、進学支援型、リカレント教育型、教養教育型の3つのプラットフォームを道内各地で展開しています。すでに5つの自治体と包括連携協定を締結しましたが、2025年度中にその数を10の自治体にまで増やし、さらに全道的な広がり結びつけるため、北海道ユニバーサル・ユニバーシティコンソーシアムを他大学、自治体、企業などと協力して設立する予定です。



小樽商科大学長
穴沢 眞



帯広畜産大学

我が国初の官立獣医専門学校が前身の帯広畜産大学。日本の食料生産の中心地として、「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置し、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進しています。本学のミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域および国際社会に貢献すること」です。北海道の十勝管内には日高山脈襟裳十勝、大雪山、阿寒摩周の3カ所の国立公園があります。この自然環境と晴天率が高い大陸的な気候は、十勝の基幹産業である畑作、畜産、酪農にも大きく寄与するとともに、本学の教育研究を進める上で、大きな強みとなっています。



帯広畜産大学長
長澤 秀行



北見工業大学

北見工業大学は、第一次産業地域に立地し、自然と調和する科学技術の発展に資する教育研究に取り組んでいます。すなわち、人生100年時代の持続社会を牽引する人材育成、北海道の先進的課題解決に寄与する研究、DX/GX推進のための体制構築を進め、社会とともに成長しています。そしてこれまでも、これからも、互いの顔が見える家庭的な環境で学び、人生を振り返ったときに、大学時代が最も充実していた、と感慨を持たれるような場であり続けます。産業領域をカバーする北海道国立大学機構の3大学は、皆さんとともに予測困難な時代に挑戦し、新たな道をひらきます。教育研究活動へのご理解、ご関心、そしてご参加をいただきたく、お願い申し上げます。



北見工業大学長
榮坂 俊雄

2022年4月、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学が法人統合して北海道国立大学機構が誕生しました。北海道の広域で商学、農畜産学、工学分野の特色ある教育研究を展開してきた3国立大学の連携で分野融合的な教育研究を開発し、北海道を支える人材育成と産学官金連携による北海道経済・産業の発展を目指しています。

教育イノベーションセンター(ICE)では、道内各地にサテライトを設立し、すべての道民に高等教育へのアクセス機会を提供する「ユニバーサル・ユニバーシティ構想」や時間・場所に制約されず自ら学びを設計できる「単位累積型学位取得プログラム」など先端的な教育プログラムが

開始されています。オープンイノベーションセンター(ACE)では、AI/IoTスマート農畜産業、寒冷地を中心とした総合災害対策、空港を活用した観光ニュービジネスなどのプロジェクトが進んでいます。2024年4月には、ICE、ACEと連携して産学共同プロジェクトを推進する産学官金連携統合情報センター(IIC)も発足しました。

北海道は食料自給率約200%、風力、太陽光など新エネルギーポテンシャル日本一、都道府県魅力度ランキングでも日本一と豊かな北の大地です。地域とともに歩み、地域とともに発展する北海道国立大学機構の挑戦にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人
北海道国立大学機構
理事長

長谷山 彰

北の大地から、 未来をひらく。

MESSAGE

北海道の知の拠点へ、期待を寄せて。

理事長アドバイザリーボード

私たち、ほくほくフィナンシャルグループは、北海道銀行と北陸銀行による「経営統合」によって誕生し、「地域社会への貢献」に向けた活動をしており、機構との共通点が多く、日頃から親近感を感じております。機構の魅力は、商学・農畜産学・工学という特色ある分野が融合して行われる教育・研究です。今後、研究成果や人材育成などを通じて、地域課題の解決に向けたさらなる貢献を期待、応援しております。ともに北海道から日本の未来を切りひらきましょう。

北海道国立大学機構は、3つの国立大学、3つの学問領域、3つの地域、の個性を連携・協働・共創を通して多彩な成果を地域に精力的に創出しています。地域が社会を変革する時代です。本機構が掲げる「この道をひらき、挑む。」思いは、全国の産業界、地域や国内外の大学から、次世代の地域・社会を生み出す原動力として注目されています。今後、さらに北海道全域を巻き込み、より高い次元での新たな飛躍に期待します。

多様性は強みです。それぞれ歴史と特色ある「経営の小樽商科大学」「畜産の帯広畜産大学」「工業の北見工業大学」などの専門性を持ち、地域とのつながりの強い3つのキャンパスを有する北海道国立大学機構は、無限の可能性を秘めています。学生同士の交流や教員の方々の共同研究などを行い、他者の眼による地域の魅力を発見してください。多様性を活用してその可能性を開花させていただきたいと願っています。

グローバルな課題解決へ、新たな知の創造を。複雑化する世界で求められるのは、多様な知を集結し、創造的に課題解決に取り組む力です。北海道国立大学機構は、自然豊かな北海道の地で、そんな新しい学びの場を創出しています。文理融合による先端研究と、地域社会との連携を通じて、持続可能な未来を築く人材を育成。デジタル技術を駆使し、イノベーションを加速させます。北海道から世界へ。新たな価値を生み出す、自律分散協調型のアカデミズムが、ここにあります。

「食」「観光」「再生可能エネルギー」など北海道の強みを生かし、北海道の価値を高め、我が国に貢献するための土台を固めるには、産学官をはじめ多様な主体が総力を結集した、「共創」による取り組みを推し進めていかなければなりません。商・農・工の分野横断型の産学協働、そして広く地域社会との連携強化を図ることのできる北海道国立大学機構は、北海道の課題解決と持続的発展に大いに寄与できる重要な拠点です。経済界としても今後の取り組みとその成果を大いに期待するとともに、本機構の活動を支援してまいります。

時代の変革期を迎えるなかにおいて、商学・農学・工学の分野を融合したイノベティブな活動を行う貴機構の役割は今後ますます増大していきます。人材育成、研究成果の社会実装、将来を見据えた基礎研究、これらも踏まえた社会変革に向けた提言など、貴機構に対する地域社会の期待も極めて大きいと感じます。貴機構が一層存在感を増し、地域の均衡ある持続的発展を牽引する存在になりますことを願っております。

専門分野や歴史、校風を異にする3大学の経営統合は間違いなく大いなる挑戦であったと思います。機構創設以来、さまざまな困難を乗り越え、3センターの創設など真摯かつ精力的な取り組みを重ねておられることに深く敬意を表します。「実学の知の拠点」としてこれからその真価が問われていくことになりましたが、地域との連携・協働の下、異分野融合のシナジー効果を存分に発揮し、機構の存在感をさらに高めていかれることを心から期待しております。

北海道国立大学機構はそれぞれ特徴のある3大学で構成される組織であり、これは唯一無二の特徴かと思えます。また北海道の広大なフィールド、気候は研究開発、実証実験、商業化にアドバンテージがあると考えています。ぜひ、この特徴、アドバンテージを生かして機構の応援者、支援者、協働者を増やし、資金を確保して研究開発を自由に、また存分に行える環境になっていくことを期待しています。

北海道国立大学機構では、機構の経営およびガバナンスなどについて適切な助言を行うアドバイザリーボードと、経営に関する重要事項の審議を行う経営協議会を設置しています。それぞれの方から、機構を応援するメッセージをいただきました。

※2025年3月31日現在

経営協議会委員 外部委員

